

第 6 次結合モデル相互比較計画 (CMIP6) について On the 6th phase of Coupled Model Intercomparison Project

河宮 未知生^{1*}
KAWAMIYA, Michio^{1*}

¹ 海洋研究開発機構
¹JAMSTEC

IPCC の第 1 作業部会による第 5 次報告書が平成 25 年に公表されたのと同時期から、次期の温暖化予測実験の枠組みについての議論が始まっている。同年 8 月には米国コロラド州アスペンで AGCI(Aspen Global Change Institute) ワークショップが、10 月にはカナダのビクトリアで世界気候計画 (World Climate Research Program, WCRP) の結合モデル作業部会 (Working Group on Coupled Model, WGCM) の会合が開かれ、第 6 次結合モデル相互比較プロジェクト (6th Phase of Coupled Model Intercomparison Project, CMIP6) における温暖化予測実験の推進体制について検討が行われている。

CMIP6 の運営体制として提案されているのが「分散型運営」である。これは、炭素循環についての C4MIP, 古気候についての PMIP, ジオエンジニアリングについての GeoMIP など関連の深いモデル相互比較プロジェクト (MIP) と協力しながら、CMIP そのものはすべての MIP に共通する基盤的な実験のみを、その他の MIP は各々の関心に応じた実験を、それぞれ管理し、全体として CMIP6 を形成するという体制である。そうした分散型運営に際し CMIP が管理すべき中心的な実験とは何かについても議論が交わされており、CO21% 漸増実験などの理想化実験や、緩和策を施した場合と施さない場合それぞれについてのシナリオ実験などが提案されている。スケジュールとしては、平成 27 年末までに社会経済シナリオを作成し、平成 28 年初頭には実験デザインを固め、モデルグループによるシナリオ実験の実施は平成 29 年からとなる見込みである。

キーワード: CMIP6, IPCC, 温暖化予測, モデル相互比較, 社会経済シナリオ, 気候モデル
Keywords: CMP6, IPCC, Global Warming Projection, Model Intercomparison Project, Socio-economic Scenario, Climate Model